長崎県感染症発生動向調査速報

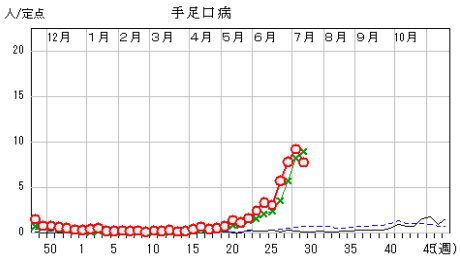
平成29年第29週　　平成29年７月17日（月）～平成29年７月23日（日）

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

（１）　手足口病

第29週の報告数は342人で、前週より58人少なく、 定点当たりの報告数は7.77であった。

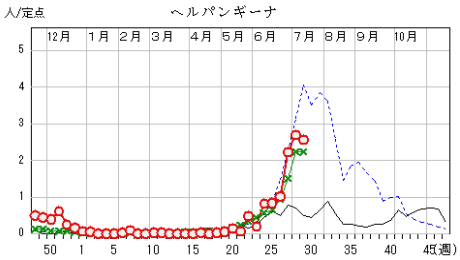
年齢別では、１歳（132人）、２歳（73人）、３歳（37人）の順に多かった。
定点当たり報告数が多い保健所は、県北保健所（19.00）、佐世保市保健所（13.00）、県央保健所（11.50）であった。



（２）　ヘルパンギーナ

第29週の報告数は113人で、前週より3人少なく、 定点当たりの報告数は2.57であった。

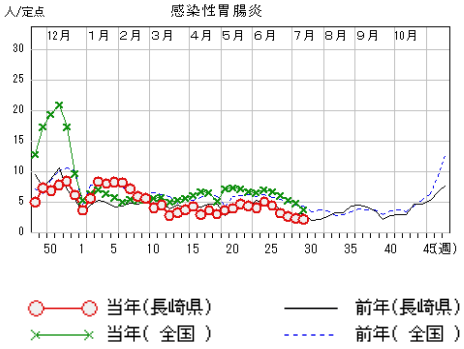
年齢別では、１歳（34人）、２歳（17人）、１歳未満（14人）の順に多かった。
定点当たり報告数が多い保健所は、対馬保健所（11.50）、西彼保健所（4.75）、上五島保健所（4.00）であった。



（３）　感染性胃腸炎

第29週の報告数は97人で、前週より6人少なく、 定点当たりの報告数は2.20であった。

年齢別では、１歳（23人）、２歳（11人）、３歳（11人）の順に多かった。
定点当たり報告数が多い保健所は、県央保健所（5.33）、県北保健所（3.33）、西彼保健所（2.75）であった。



☆上位３疾患の概要

【手足口病】
第29週の報告数は、前週より58人減少して342人、定点当たりの報告数は7.77でした。長崎県では第26週から警報レベル開始基準値の「5」を超えており流行警報が発表されています。
県北地区（19.00）、佐世保地区（13.00）、県央地区（11.50）、西彼地区（6.75）、長崎地区（6.20）の5地区で警報レベルを超えており、大きな流行の発生、または継続しつつあることが疑われますので、さらなる注意が必要です。
手足口病は、例年5月頃から報告数が増加し、夏場にピークを迎えます。本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染が主体で、飛沫感染や水疱内容液からも感染します。急性期に最もウイルスの排泄量が多く、回復後も2週間から4週間程度は、便中にウイルスが排泄されるため感染源となりえますので、保護者は乳幼児に手洗い、うがいを励行させて、感染防止に努め体調管理に気をつけてあげましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、保護者は早目に医療機関を受診させてあげるよう心掛けましょう。

【ヘルパンギーナ】
第29週の報告数は、前週より3人減少して113人となり、定点当たりの報告数は2.57でした。壱岐地区、五島地区以外から報告があがっており、特に対馬地区（11.50）は警報レベル開始基準値の「6」を超えており、次いで西彼地区（4.75）、上五島地区（4.00）も定点当たり報告数は他の地区より多い状況ですので、今後の動向に注意が必要です。
本疾患の好発年齢は4歳以下の乳幼児が中心で、発熱と口腔粘膜に現れる水疱性発疹を特徴とし、夏期に流行する小児の急性ウイルス咽頭炎です。例年6～7月に患者のピークが認められます。
今後も患者数の増加が懸念されますので、保護者は乳幼児に手洗いを励行させて、感染防止に努め、体調管理に気をつけてあげましょう。

【感染性胃腸炎】
第29週の報告数は、前週より6人減少して97人となり、定点当たりの報告数は2.20でした。壱岐地区以外から報告があがっており、県央地区（5.33）、県北地区（3.33）、西彼地区（2.75）の定点当たり報告数は他の地区より多い状況ですので、今後の動向に注意が必要です。
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くを乳幼児が占めています。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

☆トピックス：マダニやツツガムシの活動が活発な季節です。ご注意ください！

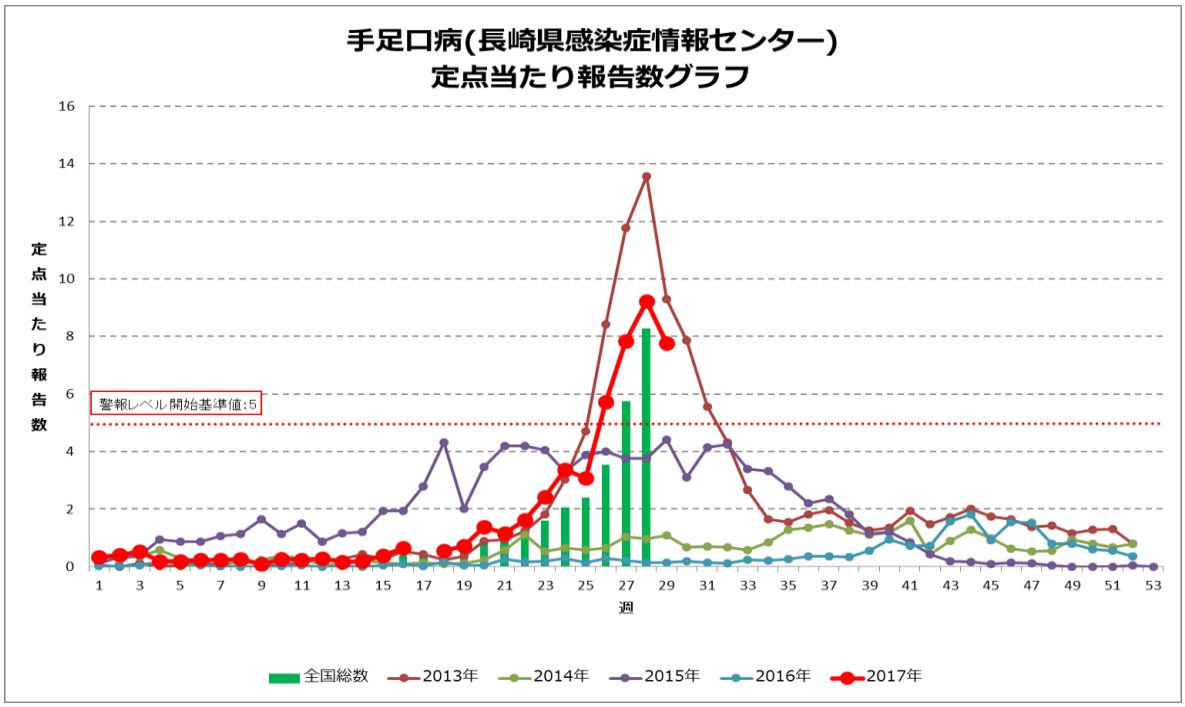
マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、食品等に発生するコナダニや衣類、寝具に発生するヒョウダニなど、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。
マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のとおりツツガムシ病を媒介します。春から秋（3～11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期です。
野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがありますので、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。 また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

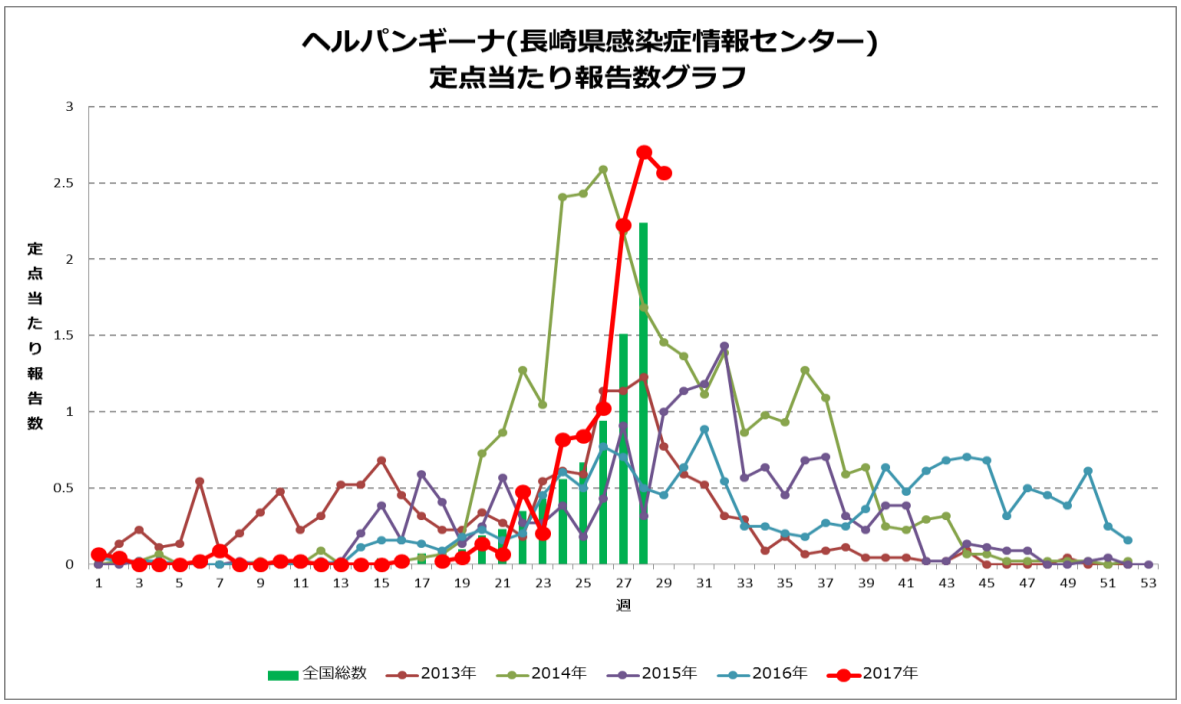
（参考）長崎県医療政策課　ダニ媒介感染症の予防
https://www.pref.nagasaki.jp/object/kenkaranooshirase/oshirase/291564.html

☆トピックス：夏かぜに注意しましょう！

　例年、夏場に流行する感染症として、手足口病やヘルパンギーナが挙げられます。5月頃から報告数が増加しはじめ、7月頃にピークを迎えます。発熱と水疱性発疹を主徴とするウイルス性感染症で、基本的に予後良好ですが、場合によっては髄膜炎や脳炎などの重篤な合併症を併発することもありますので、感染防止に努めてください。
　手足口病は、全国的に流行の兆しを見せていて、長崎県でも、第26週に手足口病が警報レベル開始基準値の「5」を超え、流行警報が発表されました。ヘルパンギーナも一部地域で患者数の増加が認められています。手足口病とヘルパンギーナについてはさらなる流行の拡大も懸念されますので、今後の動向に注意が必要です。6月末までに提供された手足口病の患者31検体のうち、19検体からコクサッキ-ウイルスA6が検出され、ついで7検体からコクサッキ-ウイルスA16が検出されています。

　主な原因であるエンテロウイルスは、せきやくしゃみを介した飛沫感染と、患者の便に汚染されたオムツや下着、器物からの接触感染（糞口感染）により広がっていきます。特に便からは1～4週間にわたりウイルスが検出されるため、回復後も感染源となり得ますので、オムツ交換や排便後の手洗いの徹底が必要です。主として乳幼児や小児に流行するため、保護者の方はお子さんの手洗いと体調管理に気をつけてあげましょう。





◆全数届出の感染症

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核　患者　女性（90代・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：報告なし

5類感染症(全数把握対象)：報告なし

◆定点把握の対象となる5類感染症

（1）　疾病別・週別発生状況　　（第24～29週、6/12～7/23）

疾　患　名	定点当たり患者数					
	24週	25週	26週	27週	28週	29週
	6/12～	6/19～	6/26～	7/3～	7/10～	7/17～
インフルエンザ	0.47	0.31	0.34	0.19	0.10	0.06
ＲＳウイルス感染症		0.02	0.05	0.02	0.36	0.98
咽頭結膜熱	0.27	0.30	0.27	0.20	0.11	0.09
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	4.23	3.52	2.25	2.59	3.52	1.95
感染性胃腸炎	5.07	4.43	3.20	2.66	2.34	2.20
水痘	0.23	0.34	0.32	0.48	0.07	0.09
手足口病	3.36	3.09	5.73	7.84	9.09	7.77
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.05		0.02	0.02		
突発性発しん	0.50	0.57	0.61	0.48	0.45	0.57
百日咳	0.07				0.02	
ヘルパンギーナ	0.82	0.84	1.02	2.23	2.64	2.57
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.39	0.73	0.66	0.52	0.82	0.57
急性出血性結膜炎						
流行性角結膜炎	0.50	0.63	0.25	0.50	0.38	0.38
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎		0.08		0.08	0.08	0.08
マイコプラズマ肺炎	0.17	0.33		0.17	0.08	0.33
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1.42	1.25	0.50	0.58	0.17	0.08

（2）　疾病別・保健所管内別発生状況　　（第29週、7/17～7/23）

疾　患　名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.06						0.50				
ＲＳウイルス感染症	0.98		1.10			0.17	6.20				
咽頭結膜熱	0.09	0.17					0.20	0.67			
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.95	0.17	0.60		0.50	4.00	4.00	5.67	1.75		4.50
感染性胃腸炎	2.20	2.50	0.50		2.75	5.33	1.80	3.33	2.25	2.00	1.00
水痘	0.09	0.33	0.20								
手足口病	7.77	13.00	6.20		6.75	11.50	3.60	19.00	3.75	4.00	4.00
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.57	1.33	0.30		0.75	0.33	1.20	0.33	0.50		
百日咳											
ヘルパンギーナ	2.57	2.17	1.70		4.75	1.50	3.60	2.00		4.00	11.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.57	0.83	1.00			1.67					
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.38	1.00	0.33		1.00						
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08		0.33								
マイコプラズマ肺炎	0.33		1.33								
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08		0.33								